

東京都ソーシャルファーム制度とわくわくかんの 取り組み

2022/4/10

NPO法人わくわくかん 若畑省二

日本の就労支援の問題点(1)

- 貧困・生活困窮は、就労の問題と密接に関連 → 生活困窮者自立支援制度や障害福祉サービス制度において、就労支援に重点が置かれるようになっている。
- 生活困窮者自立支援制度や障害福祉サービス制度における就労支援は、当事者に対する「訓練」に偏重。

日本の就労支援の問題点(2)

- なぜ日本の就労支援が当事者に対する「訓練」に偏重するのか？ — 就労の困難は、労働市場全体の問題ではなく、当事者の能力不足等の自己責任に起因しているという根強い観念 ← cf.「ステップアップ」論
- 就労の困難は当事者の自己責任なのか？
 - むしろ日本の労働市場において、困難を抱えた当事者それぞれの適性に応じた職場が、全体として準備されていないことが問題。

日本の就労支援の問題点(3)

- 就労に困難を抱えた当事者を包摂していくという社会的目的を有した事業体 — 労働統合型社会的企業
- ヨーロッパや韓国等では一般的な労働統合型社会的企業が、日本では制度として確立されていない。 → 行政・政治の問題であるとともに、日本の社会運動・市民団体のより積極的な実践が必要 → 社会的企業を創り出し、「賢い消費」等を通じてそれを支えていく社会的経済の創出。

東京都ソーシャルファーム制度(1)

➤ 制度化の経緯

- 2019年12月 「ソーシャルファーム条例」の公布・施行
- 2020年6月 パブリックコメントを経て「指針」の公表
- 2020年10月 募集要項の発表、初年度の募集開始
- 2021年3月 3ヶ所の事業所が認証、25ヶ所が予備認証

➤ 2022年3月現在、わくわくかんを含む
17ヶ所の事業所がソーシャルファームとして
認証を受けている。

東京都ソーシャルファーム制度(2)

➤ 制度の内容

- ・①就労困難と認められる者を従業員の20%以上かつ3名以上雇用していること、②自立的な事業運営、③就労困難と認められる者が他の従業員とともに働いていること、の三つがソーシャルファーム認証の要件。

- ・現段階で要件を満たしていなくても、要件を満たすべく準備を行っている事業所を予備認証として位置づけ。

- ・認証・予備認証を受けた事業所に対して、整備改修費や運営費を財政的に支援。

➤ 他の先進国では一般的な労働統合型社会的企業を、日本で初めて制度化 → 非常に画期的な制度、他の自治体へ広がっていくことを期待。

ソーシャルファーム制度の問題点

- 制度の対象が不明確 — 「就労困難と認められる者」の定義に大きな問題。結果として、就労困難と認められる対象が非常に狭くなっており、福祉的就労との類似性も生じている。
- 支援のあり方 — 新規に事業を開始する事業所に対して支援が偏重。草の根で社会的企業を実践してきた団体にとって、認証のメリットがあまりに小さい。
- 制度の透明性の問題 — 認証審査会の名簿が非公開など、認証審査手続きの透明性が大変低い。
- 申請手続きの煩雑性 — 申請書類が膨大、21年度は20年度に比べてさらに書類が増大 → 中小の市民団体にとって大きな負担。

NPO法人わくわくかんについて(1)

- 東京都北区で20年以上にわたって、精神障がいの方に対するサポートを実践 — 事業内容としては、就労に関する支援が中心。
 - 現在の事業内容
 - 就労継続支援A型事業（配食サービス）
 - 就労移行支援事業
 - 自立訓練事業
 - グループホーム
 - 計画相談事業
 - 就労支援センター（北区からの受託）
- 障害福祉サービスが主たる事業。

NPO法人わくわくかんについて(2)

- NPO法人共同連に加入 → 社会的事業所作りが基本理念の一つ。配食サービス事業を始め、多様な当事者と共に働いてきた経験が豊富。
- 障害福祉サービスの枠を超えた事業作りが大きな課題
 - 2019年末から新規事業の立ち上げを模索。

わくわくかんの新規事業

- 新しく始まった東京都のソーシャルファーム制度を活用 — 2020年11月に申請、2021年3月に予備認証、2021年12月にソーシャルファーム認証の申請、2022年3月に認証。
- 事業の内容 — コミュニティカフェと資源のリユース・リサイクルを行うリサイクルセンターを組み合わせた「しげんカフェ」 → 地域の中の居場所作り、資源循環社会の形成、就労の場の創出がコンセプト。

※ 名古屋のわっぱの会が行っている「ソーネOZONE」や荒川区の「企業組合あうん」が事業のモデル。

しげんcaféわくわく(1)

- コミュニティカフェの「しげんcafé green」とリユースショップの「リサイクルショップわくわく」の二つからなる事業プロジェクト。
- 当初の事業予定地を変更し、予定から3ヶ月遅れで北区浮間に2021年12月に開業。
- わくわくかんの既存事業から参加の5名と新規採用の3名を合わせて8名でスタート（5名が障害当事者、2名が他事業と兼務、男女比は6：2）。

しげんcaféわくわく(2)

- 高齢化が進む北区の中で、子育て世帯が増加している浮間エリアに立地。JR埼京線の高架下で、交通量の多い角地にある。



しげんcafé green

- 抹茶ラテやコーヒー、ケーキ・トースト等を提供。配食サービスの弁当を、ワンプレートランチやテイクアウト弁当として販売。



リサイクルショップわくわく

- 衣類・雑貨・家電等を幅広く販売。古紙等の資源やリユース品を地域の方から募集し、ポイントカードで「しげんポイント」をつけている。



わくわくかん新規事業の今後(1)

- ソーシャルファーム制度を活用することで、全くの新規事業を比較的スムーズに立ち上げることが可能。
- 今後5年間補助金は続くが、自立的な事業運営のためには収益性を上げることが最大の課題 → 売上をどのようにして向上させるか? — 現在のところはかなり苦戦…

わくわくかん新規事業の今後(2)

- ネットワークの活用 — ★北区で長年培ってきた社会福祉協議会、地域包括支援センター、障がい者団体などとの連携関係を、どうやって事業に反映させていくか？ ★あうん等リサイクル関連の社会的企業とのネットワークをどう事業に活かしていくか？（研修、リユース商品の仕入れ、リサイクル品の売却、共同での広報等々…）
- それぞれとしては小さな社会的企業が、密接に連携・協同して、全体として大きな力を得ていくこと
→ 多くの団体がこの「輪」に加わっていき、わくわくかんもその一翼としての役割を担えることが願い。